



# 一般社団法人 日本森林技術協会 公開シンポジウム 世界自然遺産の課題と取り組み

日本の「世界自然遺産」は、平成五年一二月に屋久島と白神山地、平成一七年七月に知床、平成二三年六月に小笠原諸島が世界遺産一覧に登録され、現在4地域になりました。特に、小笠原諸島が世界自然遺産に登録された際には、多くの報道機関で紹介され唯一の交通機関である片道二三時間半のおがさわら丸は毎航海混雑した状況が続いています。

四地域では、その頗著な普遍的価値の保護及び保全管理していくための取り組みが進められていますが、それぞれに課題があります。

日本林協では、平素から世界自然遺産と係わりのある業務を実施していることから、これまで関係してきた行政、有識者の皆様とともに各地域の課題と取組みを整理し、世界自然遺産という優れた自然を後世に残すために今何が求められているかを考えるとともに、その現状と課題に関する情報の共有を図るためにの公開シンポジウムを開催することとしました。



知床の三の沼と羅臼岳



白神山地のブナ林



小笠原での外来種(モクマオウ)駆除



ヤクシカの有害鳥獣捕獲

演題	
【総論】 1 「世界自然遺産地域の動向と課題」 環境省	2 「世界自然遺産地域の森林における課題」 林野庁
4 「屋久島における野生鳥獣対策の現況」 高橋純一 (一社) 日本森林技術協会	5 「小笠原諸島における外来種駆除」 野口絵美 (一社) 日本森林技術協会
7 質疑・応答 知床博物館長 中山正美	6 「知床における野生動物管理」 知床博物館長

無料

主催

日林協会館

5階 大会議室  
03-3261-5281

平成24年  
6月8日(金)  
13時30分～17時00分

一般社団法人  
日本森林技術協会  
東京都千代田区六番町7番地

